

# キャベツ

本来は冬が旬の野菜ですが、品種改良がなされ食感や外見、旬の違う品種がそれぞれあるので、上手に使い分けておいしいキャベツを食べましょう。

## 7月の農作業

平成15年発行：  
JAハリマ「生き生き健康野菜づくり」より

**作型** あまり早まきすると、とう立ちして大きな玉にならない。暑さと乾燥に弱いため、灌水を忘れずに行う。秋まきが作りやすい。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
年内どり								○	△			■	YR泰山・彩風
冬どり	■	■	■					○	△				あやひかり
春どり					■	■	■		○	△			SE・春ひかり

○：種まき △：植え付け ■：収穫

### 育苗

- ト口箱などに条間5～6cmで、すじ状にまく。
- うすく覆土(5mm)し、鎮圧する。発芽まで新聞紙をかける。
- 発芽したら2cmに間引き、本葉2枚頃、9cmポットに移植する。
- 種まき後35～45日位、本葉5～6枚の苗を定植する。  
灌水：午前～日中に行う。追肥は液肥500倍液を灌水代わりに散布  
床土の作成：1㎡当たり完熟堆肥2kg、BMようりん50g、セルカ150g、野菜専用肥料100g



### 畑の準備・播種(定植)

<b>土づくり a当たり</b>	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
<b>元肥 a当たり</b>	
醗酵鶏糞	30kg



本葉5～6枚の頃、丁寧に植える。植える前に灌水をして鉢の乾きを防ぐ。



外葉が大きくなると大きな玉にならない。

土寄せをしないと株が転んでしまう。

### 追肥・土寄せ

- 定植後30日頃：追肥後、軽く土寄せを行う。
- 結球開始時期：追肥する。  
(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5kg/a〔冬と春どりは7kg/a〕)

### 防除

病害虫名	耕種防除	農薬による防除
コナガ アオムシ ヨトウムシ	幼虫を捕殺 防虫網を張る 早期に発見し捕殺する	オルトラン粒剤 3～6kg/10a (1～2g/株) 定植時植穴処理 1回 トレボン乳剤 1000～2000倍 3日前 3回

### 収穫

- 手で押さえてみて、固くなっているものから収穫する。
- 長い間畑に放置すると、裂球やとう立ちする。(特に春どり)
- 先がとがってきたら、とう立ちする株である。  
秋まき：植え付けてから5ヶ月くらい

裏面は雑草図鑑 エノコログサ・メヒシバを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.291 平成27年7月16日発行

# 雑草図鑑

## エノコログサ・メヒシバ

## 7月の農作業

### エノコログサ

乾燥した場所を好み、日当たりのよい畑や道端、空き地、野原など、人手の加わりやすい場所に多く生育する一年草。種子で繁殖する。夏雑草の代表的な強害草の一つ。アワの原種とされており、名前の由来は穂の形が子犬の尾に似ていることから「犬っこ草」になり、それが転じてエノコログサと付けられた。穂を振ると猫がじゃれ付くことから猫じゃらしの俗称がある。春から夏にかけて発生し、高温の条件下では生育が進み、地ぎわで盛んに分けつをして株を作る。茎は円柱状で節は隆起して高さ20～70cmになる。葉は扁平で細長く無毛、葉鞘の縁だけに毛がある。夏から秋にかけて茎の先に円柱状の長さ3～6cmの緑色の穂を出し、卵形の小穂を密につける。



エノコログサ(出穂期)



エノコログサ(穂)



ムラサキエノコロ

### 防除のポイント

除草剤は移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード(作物によって使用方法が異なるため要確認)を花穂の形成が始まるまでに散布する。種子を形成してしまう前に防除することが重要。

### メヒシバ

日当たりのよい場所を好み、畑や野原、道端、空き地などにごく普通に見られる一年草で、繁殖力の強い夏雑草の代表的な強害草である。種子で繁殖する。種子には休眠があるが翌春には大部分が覚醒する。春から夏にかけて発生し、幼苗の葉は白い短毛に覆われている。中期から生育は旺盛になり、根ぎわから盛んに分けつして地面をはうように四方に伸び、その節々から根を下ろして草むら状になる。上部は直立し、成長すると40～80cmになる。成葉は幅広の線形で柔らかく葉縁と葉鞘にはうぶ毛状の白い毛が密生する。出穂期は7月～9月で、細長い花茎の先端に5～8本の穂を掌状に広げる。種子の寿命は1～3年と短い、1株から数千から数万粒の種ができる。



メヒシバ(開花期)



メヒシバ(育成初期)



メヒシバ(育成中期)

### 防除のポイント

移植前に土壌処理型除草剤を散布して防除する。発生してしまった場合は、移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード(作物によって使用方法が異なるため要確認)を作物に掛からないように散布する。

※農薬使用の際は、使用方法・使用時期をよく確認して使用しましょう。

裏面はキャベツを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.291 平成27年7月16日発行